

宮城県救急医療情報システム機能改善及び加入促進の取組

1 システム機能改善の取り組み

宮城県救急医療情報システムは昭和54年より稼働しているが、専用端末機が必要な旧システムからインターネット対応のシステムに大きく変更した平成19年度からのシステム機能改善の取り組みについては以下のとおり。

◆システム機能改善の主なもの一覧表（平成19年度～現在）

平成19年6月	汎用的なパソコンから利用可能なインターネットのシステムへ変更	
平成19年11月	「災害時救急医療情報システム」機能を追加	※1
平成20年6月	応需情報入力画面の変更、及び後方転送情報機能の追加	※2
平成21年4月	医療機能情報提供システム（『みやぎのお医者さんガイド』）追加	※3
平成22年3月	消防本部用に携帯電話による応需情報提供を開始	
平成23年2月	メールによる応需情報入力依頼を開始、災害のメーリングリストを新設	※4
平成23年3月	事故災害対応の災害時患者受入情報入力画面の新設	
平成23年6月	救急隊向けに救急搬送実施基準を携帯電話から参照可能な機能を追加	
平成23年10月	厚生労働省の広域災害救急医療情報システム（EMIS）との接続を開始	※5
平成23年11月	救急患者退院コーディネーター事業用の機能を追加	※6
平成24年5月	携帯電話からの災害情報入力画面の提供開始	
平成25年4月	応需情報入力支援機能（入力忘れ防止のアラーム機能）の提供開始	

- ※1) 災害時に医療機関の被災情報を県が把握する為に作成した。医療機関は自院の被災情報や診療可否情報、入院患者の状態、必要な物資や応援など、様々な情報を発信可能。
- ※2) 診療科毎に空床有無を入力していた方式から、救急患者受け入れ可能空床数入力の画面に変更。
- ※3) 誰でも参照可能な病院、診療所、歯科診療所、助産所の詳細な情報を掲載。日時指定で診療可能な医療機関を検索できる等、軽症で救急車が呼ばれるのを抑止する潜在的な働きがあると推察している。（<http://medinf.mmic.or.jp/>）
- ※4) 毎日夕方に応需情報が未入力の医療機関に対し、メールにて入力をお願いしている。災害のメーリングリストは主に医療関係者の携帯メールアドレスに対し、災害下の他医療機関の情報等を通知するもの。停電でPCが利用できない場合の連絡手段としても有効である。
- ※5) EMISとの相互接続により、両方に情報を入力する必要が無く、情報が共有されるようになった。他県を含む広域災害の情報を入手可能になった。
- ※6) 救急患者の空床確保という課題解決のため、救急患者の入院から回復期病院への転院やその後の動向を調査研究する事業。当システムでは協力医療機関の回復期患者の受け入れ可否情報等を入力、照会する機能を提供している。

◆今後の展望

- ・超高齢化社会への突入を目前に控え、社会情勢にマッチした救急医療情報を提供できるよう改善に努める。
- ・スマートフォンやタブレット等、ハードウェアの進化に後れを取らないよう最新の技術を調査研究する。

2 加入施設数増加に向けての取り組み

救急医療情報システムの平常時の情報入力・提供に関し加入者増加に向け広報を行っている。
また、災害時の情報入力・提供に関し積極的に広報を行っている。

(1) 災害時の救急医療情報システム

- ・東日本大震災時の情報の入力と提供（平成 23 年 3 月～4 月）
- ・各種防災訓練時における救急医療情報システムの活用について広報を行っている
- ・広域災害・救急医療情報システム（EMIS）との接続（平成 23 年 10 月～）。
県システムを利用することにより EMIS への情報入力が行われるなどを広報

(2) 退院コーディネーター事業との連携

退院コーディネーター事業でシステムを利用いただいている施設にも救急医療に協力可能な施設があれば広報を行っている。

退院コーディネーター事業の打ち合わせ会などで、参加施設に対し退院コーディネーター情報のみの利用だけではなく、救急医療情報に興味を持ってもらいシステムに協力いただける施設には加入を呼び掛けている。

(3) 既存、新規開設施設への広報

- ・協力利用いただけそうな施設への広報（急患センター、救急告示医療機関など）
- ・新規開設の施設への広報

(4) 今後の情報提供

- ・救急医療情報システムの資料、最新情報などをシステムページ内で提供、メール等で提供